

平成 22 年 3 月 31 日現在

研究種目：基盤研究 (C)
 研究期間：2007年度-2008年度
 課題番号：19520104
 研究課題名 (和文) ホスピスの現場からみたアートの可能性について
 研究課題名 (英文) Possibilities of Art at Hospice
 研究代表者 横川 善正 (YOKOGAWA YOSHIMASA)
 金沢美術工芸大学・美術工芸学部・教授
 研究者番号：90106617

研究成果の概要：

美術館や美術学校などにおいて、従来より一般的に導入されてきた「アート」の概念にたいして、国内外のホスピスで行われている「アートセラピー」について行ったフィールドワークをもとに再検討を加えた。これらを論文としてまとめたことで、芸術をめぐる今日の制度化された枠組みを相対化し、新しいアートやデザインの再生を期するためのパラダイム作成の手掛かりを与えると同時に、これからの美術教育やデザイン教育の現場に導入可能な理念と具体的な創作活動の指針が提示できたと考える。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	800,000	240,000	1,040,000
2008年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,300,000	390,000	1,690,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・美学・美術史

キーワード：ターミナル・ケア、ホスピス、コミュニケーション

1. 研究開始当初の背景

過去五年間にわたり、イタリアにあるホスピスについて調査してきた申請者は、それまでの個人的な体験に基づく総論的なアプローチをもう一步前進させ、より綿密な具体的で

客観的かつ学術的な視点に立って検証することに向かった。

2. 研究の目的

近代のインフラの代表格である病院の理念とは対極にある制度としてのホスピスから、モダンアートやモダンデザインの未来を展望することを目的とした。限りある生命と時間を濃密に生きようとするホスピスの患者と、自己実現と自己表現に命をけるアーティストのなかに、ある種の精神的相同が見い出せると仮定し、そのエヴィデンスを探ることを目標とした。最大の目的は、ホスピスの現場から得られるアートの可能性を検証し、多様化する現代アートとデザインの新しい方向性とエネルギーを汲み上げることとした。

3. 研究の方法

研究題目とした、「ホスピスの現場からアートの可能性を探る」をテーマに、英国とイタリアそして我が国のホスピス等において取り入れられ、一定の成果をあげているアートをとおしてのケア活動の実態、いわゆる「アートセラピー」が患者にとっていかなる意味をもつものかをフィールドワークをとおして再考した。アートやデザインを学ぶ学生たちと緩和病棟や授産施設を訪れ、具体的なアート制作とおして、患者の反応を観察し、ケアとアートの具体的な接点を探ることとした。

4. 研究成果

キーワードとして挙げた「ターミナル・アート」は申請者の造語だが、これによりケアの時代にとって望ましいアートとデザインの展望をある程度描けたと考える。今日の制度化された枠組みを相対化し、新しいアートやデザインの再生を期するためのパラダイム作成に寄与し、そこから、美術教育やデザイン教育の現場に求められる具体的な創作活動の可能性を引き出すことが出来たと考

える。

その成果として、論文『ホスピスが美術館になる日』をまとめ、出版することになった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 件)

[学会発表] (計 件)

[図書] (計 1 件)

単行本『ホスピスが美術館になる日』

-英訳題 The Day When Hospices Replace Museums

ミネルヴァ書房より、2010年4月10日出版予定

[産業財産権]

○出願状況 (計 件)

○取得状況 (計 件)

[その他]

6. 研究組織

(1) 研究代表者

横川 善正 (YOKOGAWA YOSHIMASA)

金沢美術工芸大学・美術工芸学部・教授

研究者番号：90106617

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者

